

【団体名】 緑のDNAバンク

【事業の目的】 安城洪積台地にわずかに残る森の貴重な遺伝子資源を保存し自然の原則に従って都市の森を再生することで森づくりの質を高め、遺伝子レベルで「繋がる森づくり」を進める。

【実施内容】

●2007 年から行ってきた碧海洪積台地（油ヶ淵周辺地域）の森の調査を継続し、これまでに増して油ヶ淵周辺の植生の原始の姿が明らかになった。

●県営油ヶ淵水辺公園の安城エリアの植樹準備活動を行った。

①公園内の B エリア（安城エリア）に植える安城のふるさとの苗木 10000 本を借り植えトレイからポットに 6 月から 1 月にかけて 8 か月で植え替えを完了した。

②冬場は週 3 回春から晩秋にかけては毎日の水やり、適期の施肥、日々の除草作業により、安城エリアの植樹に十分間に合うように苗木を成長させることができた。

●安城エリアでの植樹予定数を上回る苗木の準備を計画より早めに完了させたことにより、県との具体的な協議を開くことが可能となり、植樹を始める時期や期間、植樹方法についての取り決めが行われ、公園が継続する限り、安城のふるさとの木を県営油ヶ淵水辺公園に残し、未来に残すことができるようになった。

●3 月末に公園安城エリアでのテスト植樹を無事完了した。

●28 年 3 月 31 日現在で、植樹活動を行う準備がすべて完了し、4 月から実際に、会のメンバーが特別に工事中の公園に入って、植樹を始めることになった。

【成果と課題】

① 成果

●県と会の意見の相違など、これまでに多くの困難がありましたが、必要な苗木を全て育て抜いたその結果、県庁が動いて公園への植樹の計画を現実に関動き始めたこと。

●公園に育てた森を、未来で実際に受け取る世代である子供たちが数名メンバーに加わり、活動そのものを次世代に繋ぐことができた。

以上 2 点が今回の活動の最大の効果だといえます。

② 課題

●地域に在来している原始植生に近い苗木のみを厳選して森づくりの準備を進めたことは、森づくりの基本であるが、今後これを土台として、森づくりを進める際に、地域で消滅して得られなかった樹木を何をもって補い最終的に本来の地域の森の姿を回復させるかが、課題であり、この課題に対して自然が教えてくれる答えは、今後日本の森づくりを新しいステージに導いてくれるはずである。



↑ 10000 本原始植生の苗木の育成



↑ 育成中のアラカシ、4月現在の様子